
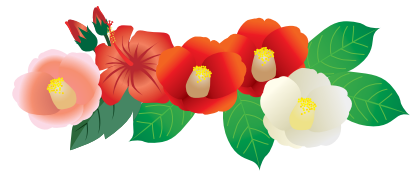


おおふなと

 ふれあいネットワーク

社協だより



2018年3月号

【特集】地域で育む福祉教育推進事業……2～3
大型災害公営住宅自治会交流会……………4
災害ボランティア養成講座……………4
ランチで広がるあったか笑顔……………5
いきいき健幸教室……………5
お知らせ……………6～7
輝き人……………8



今月の表紙

きんの たつや なお
金野 達也さん・奈緒さん
りく りこ りせ
璃空くん 莉瑚ちゃん 琳星ちゃん
(6歳) (3歳) (1歳)





地域で育む 福祉教育推進事業 (吉浜地区)

防災マップづくり地域調査の様子

●「我が事丸ごと」福祉教育

今年度、大船渡市社会福祉協議会では、岩手県社会福祉協議会からモデル指定を受けて「地域で育む福祉教育推進事業」を実施しています。

この事業は、福祉の学びを児童だけでなく地域住民が主体的に地域福祉を進めていくための取り組みと捉え、行事や交流をとおして、一人ひとりが地域の課題を真剣に考える機会とするものです。

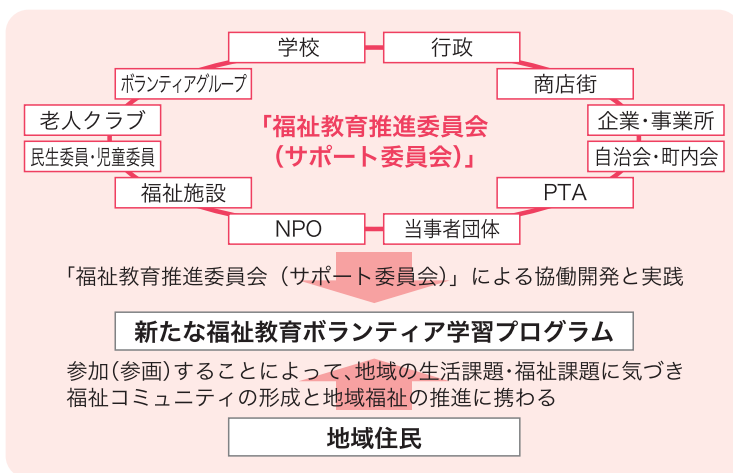
モデル地区として三陸町吉浜地区を指定し、吉浜地区助け合い協議会や吉浜小学校、中学校の協力を得ながら3年間取り組み、最終的には「地域の課題は地域で解決」できるよう、世代を超えて住民が共に支えあい、助け合える環境づくりに努めていくことが目標となります。

ねらい

- 1 世代間交流により、地域の高齢者を大切にする心と郷土愛が育まれる
- 2 住民の福祉意識向上により、地域全体のつながりが強まる
- 3 吉浜地区助け合い協議会の役割について地域住民の理解が図れる

●幅広い世代が参加

事業の実施にあたっては、地元住民の世代間交流を大切にし、子どもだけでなく、大人にとっても吉浜地域資源の再発見につながるような行事を取り入れてきました。小学生は田植えやさつまいもづくりを地元の農家の方から学び、中学生は地域の特産として行われるホタテの耳吊り作業を体験。その他にも、地区公民館や住民とともに防災マップ作りに取り組み、危険な場所や避難ルートの確認で





寒さに負けず、凧揚げを楽しみました

気づいた成果を文化祭で発表し、地域の安全をみんなで考える機会となりました。

親子のふれあいを深めた吉浜凧づくり、凧揚げ交流会では、地域住民50人が参加し、寒さに負けず大人も一緒に色とりどりの凧を揚げて、昔の遊びを楽しみました。

親子で参加した木村佳那子さんは「大人も子どもも、普段できない経験をすることができた。子どもだけでなく親同士の交流にもつながるような行事は、また参加してみたい。」と話してくれました。

年間の主な取り組み

・上半期（4月～9月）

支えあいマップづくり

田植え

さつまいも苗植え

漁業体験

資源回収

防災マップづくり

実践発表会

ふるさと講習会

・下半期（10月～3月）

稲刈り

吉浜募金活動

米づくり収穫感謝祭

吉浜探検隊

施設訪問

スネカ

吉浜凧づくり

凧揚げ交流会



収穫した米で感謝の気持ちを伝えました

●足りないものはみんなで創る

たすけあい協議会が中心となつて取り組んでいる住民支えあいマップづくりでは、扇洞、中通、上通、根白、千歳を対象に実施し、住民が抱える課題や今後必要となる社会資源について一緒に考えました。「移動手段が少なく、道幅が狭くて大変」「気軽に住民が集まれる場所が必要」など課題や意見があげられ、扇洞では参加メンバーの家を持ち回りで開放し、お茶のみサロンが開かれるきっかけになりました。今後はさらに住民の声をひろいあげ、自主性を生かしながら地域の課題に取り組む姿勢を大切にして、マップづくりを進めていきたいと思っています。

●今後にむけて

一年目は小中学校、地区助け合い協議会が主体となった各種活動に取り組む、相互に連携・協力できる関係性を築くことができました。また、吉浜で盛んに行われている漁業を生かした地域の特産や伝統芸能など文化に触れることで、社会資源の再発見につながり、ふるさとを大切にする郷土愛が育まれました。吉浜地区たすけあい協議会事務局長の新沼秀人さんは「シルバー世代と子どもの交流だけで

なく、地域住民みんなで支えあえるまちを目指し、継続して取り組みたい」と、今後の意気込みを話してくれました。



住民が抱える課題について真剣に考えました

住民の声 (アンケート回答)

- ・もっとたくさんの方が参加すると、もっと楽しくなる
- ・ギネス記録に挑戦することがしてみたい
- ・もちつきや凧揚げがとても楽しかった。また家族で参加したい。

大型災害公営住宅自治会交流会 あせらず、無理せず、あきらめず



岩手県沿岸の災害公営住宅で、大型（100世帯以上）の住宅コミュニティ形成に励む5市町自治会役員の情報交換会が2月11日に陸前高田市柝ヶ沢アパルトで開催されました。

当日は、支援者も含め69人が参加。大型の住宅特有の課題についてグループ毎に分かれて話し合い、他市町村の取り組みを参考にしながら今後の運営を考えました。



他市町村の取り組みに耳を傾ける参加者

意見交換では、「役員のなり手が少ない」、「住宅が大きいため誰が住んでいるか把握できない」、「独居高齢者が多いため、住民同士の見守りが必要である」等の共通する課題が出されました。

陸前高田市の柝ヶ沢アパルトでは、365日休まずラジオ体操を開催するほか、男性も参加しやすい麻雀の集いで、住民の交流を図っているとのこと。釜石市では、子育て中の親子が参加できるイベント開催を心がけ、学習会やスポーツ交流会により自治会と住民の距離を縮めているそうです。

大船渡市泉哲さん（63歳）は、「ボランティアの活動内容は幅広く、いろんな考えをもって活動している人たちがいることを知り、とても驚いた。土のう作りも初めて体験し、持ち運ぶことも考えた重さに調整することなど、とても参考になりました」と話してくれました。

災害ボランティア養成講座 自主性と協調性をもった ボランティア活動



災害時にボランティアとして活動するための必要な知識を身につけ、防災意識の向上と災害ボランティアの理解促進を図ることを目的とした災害ボランティア養成講座を2月26日に開催しました。

当日は、地域住民のほかに企業、団体の方も参加し、東日本大震災時に大船渡市で災害ボランティアに尽力いただいた災害救援隊SVTS風組の桑原誠氏が

ら災害の種類やボランティアに必要な姿勢を学びました。

講座では、「ボランティアとして常に住民に寄り添った行動を心がける」、「自分の活動経験を押し付けず、地元のボランティアセンターや県外のボランティアとの協調性を大切にする」等、これまで現場で学んだ教訓が伝えられ、受講者は領きながら熱心にメモをとっていました。

講演後は大船渡地区消防組合の職員から、台風や長雨による水害発生時に役立つ、土のうの作り方や積み方の技術を学び、実際に体験しながら受講者同士で対処法を確認しました。

受講者の泉哲さん（63歳）は、「ボランティアの活動内容は幅広く、いろんな考えをもって活動している人たちがいることを知り、とても驚いた。土のう作りも初めて体験し、持ち運ぶことも考えた重さに調整することなど、とても参考になりました」と話してくれました。



土のうの作りを体験する受講者

地域活動レポート

ランチで広がるあつたか笑顔



盛町にある日本キリスト教団大船渡教会(村谷正人牧師)では、親子の交流と親同士が楽しく過ごせる場所「まめっこくらぶ」(村谷志保代表)を開催しています。対象は未就学児のいる家族で、毎月5組程度の親子がこの日を楽しみに訪れます。

立上げは一昨年。自身も子育て中だった村谷さんは家庭以外に小さな子どもと一緒に食事がとれるやすらぎの場が少ないことから、教会を開放して友人や知人を招待。



天井が高く、開放的な空間で遊ぶ子どもたち

その後、フェイスブックなどのSNS(ソーシャルネットワークサービス)を用いて情報発信しているうちに活動が定着したそうです。

午前11時から午後2時まで開放するまめっこくらぶ最大の魅力はランチが出ること。「子どもと遊びにいったらランチが付いてきたら最高じゃないですか。」と笑顔で話す村谷さん。会員の登録などは必要なく誰でも利用可能。手伝ってくれるボランティアも歓迎とのこと。会費は300円でパン作りや季節に応じたイベントが開催され、友達づくりや情報交換の場となっています。

結婚して関東から移住した久保田知美さん(27歳)は「ここは気兼ねしないで来れる場所。保育園や大型の施設と違ってアットホームなところがいいですね。家ではなかなかご飯を食べない子どもも、ここに来るとおいしそうに食べてくれるので助かっています」と話してくれました。

地域サロンレポート

いきいき健幸教室



「いきいき健幸教室」は、三陸町越喜来泊区の女性部が中心となつて運営しているサロンです。平成29年7月から毎月第2火曜日に泊公民館を会場として活動しており、毎月10名前後の住民が参加しています。サロン開催時には毎回手づくりのチラシを配布して住民に参加を呼びかけます。

2月15日のサロンでは、社会福祉協議会の陽だまりサポーター



気仙語訳された絵本「おんぶおばけ」を皆で音読しました

(生活支援相談員)とNPO法人おはなしころりんが参加協力し、軽体操や、絵本を使ったクイズと音読を行いました。その後、昔使っていたねんねこ半纏や昭和42年の主婦の店(現マイヤ)の特売チラシなど、懐かしの品々を見ながら、当時の思い出を語り合いました。

参加者の今野シンコさん(79)は「3回程休んでいて、今日は久しぶりに参加した。手の運動や頭の体操、ゲームなどをしながら、色々な人と交流できることが楽しい」と感想を述べてくれました。泊区女性部長の里見安子さん(68)は「現在は社協の陽だまりサポーター等の支援を受けながらサロンを開催しています。春になつたら、お花見会なども企画して、年齢を問わずに気軽に参加できるサロンにしていきたい」と今後の意気込みを話してくれました。

* 支えあいまちづくり事業情報

資格取得支援金

福祉施設等で働いている方々のスキルアップを支援するため、資格を取得した方々へ支援金を交付します。

対象 市内の社会福祉施設で働きながら、新たに次の国家資格等を取得した人で、資格取得後も引き続き市内の社会福祉施設等で働いている人

- (1) 社会福祉士
- (2) 介護福祉士
- (3) 介護支援専門員
- (4) 作業療法士
- (5) 理学療法士
- (6) 保健師
- (7) 精神保健福祉士
- (8) 保育士
- (9) 看護師
- (10) 准看護師
- (11) 義肢装具士
- (12) 言語聴覚士

支援額 5万円

* 岩手県福祉人材センター情報

介護のしごと相談

キャリア支援員が福祉の職場に就職したい方などの相談に応じます。相談を希望する場合は、事前に連絡をお願いします。

介護のしごと相談（4月）

開催日	会場	時間
9日(月)	Y・Sセンター	午前 9時～午後4時
12日(木)	ハローワーク	午前10時～正午
16日(月)	Y・Sセンター	午前 9時～午後4時
23日(月)	Y・Sセンター	午前 9時～午後4時
26日(木)	ハローワーク	午前10時～正午

申込・問い合わせ先

岩手県福祉人材センター・坂本さん
電話 080-8201-0200

* 共同募金情報

2月に、次の方からご寄付をいただきました。ありがとうございました。

一般募金

浄願寺吉水講様

一般募金（自動販売機）

大船渡市農業協同組合様
大船渡市身体障害者協会様
オープンハウスいやしの村様

「募集」「イベント」「お知らせ」など暮らしに役立つ情報をお届けします。



申込・問い合わせ先 大船渡市社会福祉協議会
電話 0192(27)0001(代表)

* 支えあいまちづくり事業情報

陽だまりサロン

誰でも参加できるサロンです。ご近所お誘いあわせの上、お近くのサロンへお越しください。

時間 午前10時～正午（猪川地区公民館でのサロンは午後1時まで）

内容 血圧測定、軽体操、ゲーム、手芸、お茶っこなど

陽だまりサロン日程（4月）

開催日	会場
4日(水)	崎浜公民館
6日(金)	吉浜拠点センター
10日(火)	田代屋敷公民館
11日(水)	鷹生公民館
18日(水)	崎浜公民館
20日(金)	下中井公民館
24日(火)	猪川地区公民館
27日(金)	綾姫ホール

* 子育て関連情報

保健師の健康相談

子どもの発達、健康について保健師といっしょにお話ししませんか。時間内自由参加で個別相談もできます。

日時 平成30年4月18日（水）
午前 10時00分～正午

会場 大船渡市Y・Sセンター

講師 平野智美さん(保健師)

参加費 無料

ママとお子さんの食事相談会

子どもの食事に関する悩みを管理栄養士とお話ししませんか。時間内自由参加で個別相談もできます。

日時 平成30年4月26日（木）
午前 10時00分～正午

会場 大船渡市Y・Sセンター

講師 菅野香澄さん(管理栄養士)

参加費 無料

*大船渡市Y・Sセンター情報

筋力トレーニング指導

筋力アップを図り、健康的な身体を作ること

日 時 毎週水・金曜日
午後1時30分～3時30分

会 場 大船渡市Y・Sセンター
講 師 さんりくWELLNESSさん
参加費 無料（利用料別途）
持ち物 上履き、汗拭きタオル

*就労準備支援事業情報

フリースペース開催

就労準備支援事業では定期的に体を動かす機会としてフリースペースを設けています。興味のある方は事務局までお申込みください。

日 時 平成30年4月5日、12日、19日、26日 いずれも木曜日
午後1時30分～3時30分

会 場 大船渡市Y・Sセンター
内 容 4月5日、12日 スポーツ吹き矢
4月19日、26日 卓球
持ち物 上履き

*生きがい健康づくり事業

水泳教室受講生募集

平成30年度第1期の水泳教室を次のとおり開講します。受講希望者は、受付期間内に大船渡市Y・Sセンターへ申込んでください。

水泳教室名	曜日	時 間	定員	回数	期 間	内 容
ラクラク教室	火	午前10時～11時	40名	13回	4月10日～7月10日	水中運動
イキイキ教室	水	午前10時～11時	40名	13回	4月11日～7月11日	水中運動
スイスイ水泳教室	木	午前10時～11時	40名	13回	4月12日～7月12日	水泳指導
リラックス水泳教室	木	午後6時30分～7時30分	40名	13回	4月12日～7月12日	水泳指導
チャレンジ水泳教室	金	午前10時～11時	40名	13回	4月13日～7月13日	水泳指導
児童水泳教室	土	午前9時30分～10時30分	40名	13回	4月14日～7月14日	水泳指導
		午前10時30分～11時30分	25名			

受付期間 3月26日（月）～28日（水）
*初日は、児童水泳教室を優先して受け付けます。
受付時間 午前9時30分～午後4時30分（予約を含め電話でのお申し込みは出来ません）
受講料 1教室1,000円（プール利用料別途）



今月の表紙

金野達也さん
奈緒さん
璃空くん（6歳）
莉瑚ちゃん（3歳）
琳星ちゃん（1歳）
（大船渡市末崎町在住）

3月で保育園を卒園する璃空くん。小学生になったら「サッカーを習いたい。友達を6人作る!」と笑顔で話してくれました。



- 4月号課題「笑う」
- 締め切り 4月5日（木）**必着**。
1人1句。
（自信作をひとつ）
はがき使用。
- 投句先 立根町字下欠125-12
「Y・Sセンター」内
大船渡市
社会福祉協議会
「ふくし川柳」係
- その他 作品によっては、添削する場合があります。投句者の氏名にはフリガナをつけてください。

（評）「ヘルメット」という言葉だけで、働いている光景が見える。「鉄骨」とあるから、重労働だということも分かる。今の時期だと、復興関連の工事だろうか。ケガをしないで働いてほしいものである。

鉄骨に 凜と向き合う ヘルメット

赤・志田 トミ

《佳作》

「ふくし川柳」
春めいて着る物選びそわそわと
厳冬を癒されました湯たんぽに
被災地に人住んでこそ神宿る
老いてなお笑い上戸は福の神

日・佐藤アサ子
末・滝田 澄子
越・平田 栄夫
盛・田沢 博昭

課題「雑詠」

富谷英雄 選

輝き人

いそ じま み き
磯 島 未 来さん (34歳)



吉浜在住。八戸市出身。幼少よりモダンダンスを習う。上京後はグループを結成し、国内外11都市で作品を上演。2008年度文化庁在外研修員としてベルリンに2年滞在。仙台で4年間を過ごし、2017年に郷土芸能を追いかけ大船渡市へ移住。

芸術が人をつなぐ

●ダンスとの出会い

私の通っていた八戸の保育園では、定期的にダンスを習う時間がありました。キレイな衣装を着て発表会で披露する程度で、幼いころはただ好きなかただけで踊っていました。卒業後もダンスの稽古を続け、大学進学で上京し、師事した人の影響から「ダンスにはすごい力があるな」と、これまで芽生えなかった感情が湧きあがってきたんです。昔から人前で話すことは苦手だった自分が、ダンスを踊っているときは、周りを気にせず自由に表現できていることに気づきました。それからは海外に渡り、その土地の文化や風土を感じながら、型にはまらない自由な発想を持ち、ダンスを創作し上演し続けてきました。

●郷土芸能という宝物

東日本大震災発災後、NPO

法人JCDNの企画でアーティストが、被災地を訪れるようになり、2年が経過したところから「被災者が受け手となる形」ではなく、「被災者が主体となり全国に発信する」ための取り組みが出来ないかと、2014年から三陸国際芸術祭が開かれました。そこで、こどもから大人まで幅広い世代の人々が、昔から今日まで受け継がれている三陸沿岸の郷土芸能に初めて出会い、習いはじめました。

この素晴らしさを全国や海外に伝えたいという思いもあって、家族とこの地に移住し一年になります。現在は息子と一緒に越喜来の浦浜念仏剣舞と金津流浦浜獅子躍の習得に励んでいます。

●ダンスが持つ可能性

自分らしさを大切に、心から楽しむ時間を作りたくて、ダンスワークショップを開催してい

ます。年齢や障害の有無に関わらず、誰にでも自由な発想でダンスはできます。表現することで、なにか言葉にはできない共感や感動を生み出すことが出来たら幸せです。誰にだって苦手なことはあるし、生きづらさを抱えながらも頑張っている人たちがある、そんな人たちと一緒にダンス作品を作ることが私の力になっています。

今後は、郷土芸能を学びながら地元人として踊り、引越してきた住民として、この土地の素晴らしさを全国へ発信していきたいらと考えています。



見つけて Happy

寒い日もありますがもう春はすぐそこですね！さて、今回の社協だよりに椿がたくさん咲いていますが、椿ではない花がまぎれています。さがしてみてね！